

ストレッチャー選びのポイント



エックスフレームの剛性が重要です！

- 1** 車載という特殊な使用環境を考えると、ストレッチャー選びも車椅子と同様に、剛性が第一のポイントです。剛性が弱いと走行中にストレッチャーが揺れてしまいます。
- 2** 退院・転院の時は、「ベット→ストレッチャーの移乗」が必要です。昇降式ストレッチャーなら、ベットの高さに合わせることができて移乗が楽です。また、利用者の身体的負担も軽くなるので、発注者の病院側も昇降式ストレッチャーを要求する傾向にあります。
- 3** 利用者が点滴をしたまま乗車する場合、点滴薬を落とすための高さが必要です。しかし、車両内は高さが限られています。昇降式ストレッチャーなら寝台部を低く下げられる（患者を低い位置に下げられる）ので、点滴薬の高さを確保できます。【低く下げられる＝重心が下がる＝揺れにくい＝身体負担がない】
- 4** 利用者が自宅にいる場合（稀なケース）は、ストレッチャーが入らないので担架等が必要です。こんな時、寝台部が外れる機種なら担架代わりに使えて便利です。しかし、寝台部がストレッチャー本体に固定されていないので、多少のガタつきが生じます。また走行中、万一追突等の事故が起これば、担架が外れて利用者が飛び出す可能性があるため、走行中は担架部と本体を固定する安全措置が必要です。



■ストレッチャーの寝台部を外し、担架として使用

住宅内外に利用者を搬送する担架ですが、住宅内は廊下等の幅が狭く、担架が使用できない（方向転換ができない）ことが多い。この場合はソフト担架等を利用することになります。



ストレッチャーの搬送は、重篤な患者が対象なので、揺れが少ない剛性の高いものを選びましょう。その意味では、昇降式Aタイプがベストですが、高価なのがネックです。そこで、価格と剛性・装備のバランスが最もとれた昇降式Bタイプがおすすめです。